

特別展示 「平安貴族の住まいと暮らし」によせて

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

京都市考古資料館では、平成25年度前期特別展示として「平安貴族の住まいと暮らし」を開催いたします。

平安遷都以降、平安京内には皇族・貴族の大邸宅が数多く築られました。平安貴族の生活のようすは、歴史学や文学あるいは絵巻物から研究がすすめられています。発掘調査により記録に残されていない邸宅が発見される機会が増えてきています。

京都市立西京高等学校新校舎建設にともなう発掘調査で見つかった邸宅もその一つで、平安京右京三条二坊十六町の1町を占め、「齋宮」の文字を墨書した土器が出土したことから、伊勢神宮に仕えた「齋宮」と深く関わる邸宅であったことが明らかとなりました。2013年3月には、出土遺物566点が「平安京右京三条二坊十六町『齋宮』邸出土品」として京都市の有形文化財に指定されています。

また、平安京内では、嵯峨上皇にはじまり皇族が代々にわたって居住した「冷然院」、邸宅内の工房跡が見つかった淳和上皇の「淳和院」、日本最古級の平仮名で話題となった藤原良相の「西三条第」、菅原道真を左遷した藤原時平の「本院」、平等院鳳凰堂を建立した藤原頼通の「高陽院」など、平安時代を彩った著名な人々の邸宅の発掘



平安京右京三条二坊十六町「齋宮」邸の庭園（北西から）

写真左手前の泉から湧き出した水が池を灌（かん）いでいた。池の汀には丸い河原石で洲浜がつくられている。右手前には泉に面した建物の柱穴が並ぶ。



「齋宮」・「齋雑所」の文字を記した墨書土器

これらの土器から「齋宮」に関わる邸宅であったことが証明された。

調査が行なわれています。

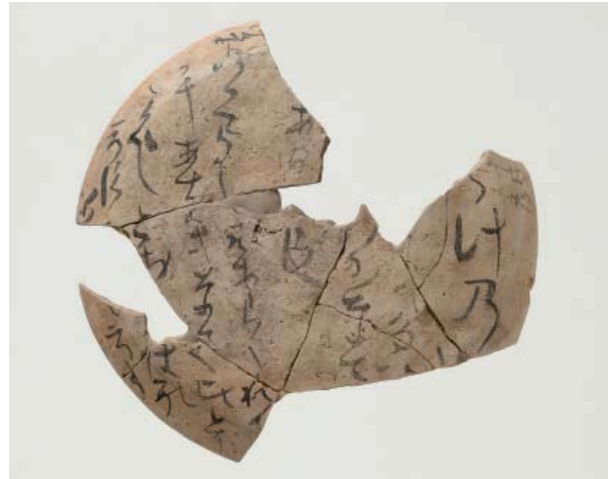
今回の特別展示では、「齋宮」邸の調査成果や出土遺物を中心に、平安時代前期から中期の皇族・貴族の邸宅の調査写真、絵巻物に描かれた邸宅の図像、貴族の生活を

物語る上質の中国製陶磁器・緑釉陶器・灰釉陶器や石製品・金属製品・木製品などの出土品を展示することで、平安貴族の住まいと暮らしの有り様を考古資料から紹介します。
(山本雅和)



藤原良相邸の池と建物（南東から）

平安時代前期に右大臣をつとめた藤原良相の邸宅は、平安京右京三条一坊六町の1町を占め、「西三条第」別名「百花亭」と呼ばれた。邸宅北西部の池からは墨書土器のほか多量の遺物が出土した。その中には最高級の工芸品が含まれている。



平仮名を記した墨書土器

9世紀後半に位置付けられる日本最古級の平仮名である。土器の外表面全体に文字を記している。平安京内の有力貴族の邸宅から出土したことは、仮名文字の成立と展開に関する非常に重要な資料である。



冷然院の庭園（北から）

冷然院は左京二条二坊三町から六町の4町を占める広大な邸宅であった。現在はその南半分を二条城が占めている。城内の調査では、1mを越える大きさの石材を組み合わせた遣水（やりみず）が見つかった。底面の一部には瓦を平坦に敷いている。



平安京右京三条三坊五町の邸宅

大きな柱穴が整然と並ぶ大規模な建物がL字形に配置されている。邸宅の主の名前は記録にないが、この地が後に棲霞寺（現在の清凉寺）の領地となったことから、嵯峨天皇の皇子で光源氏のモデルともされる源融との関わりがうかがえる。



平安京右京三条三坊十町出土の化粧道具

小柄な女性の棺の中に漆塗り革製の角盆の上に置いて納められていた。銅鏡・銅製の毛抜き・鉛白（白粉の一種）を入れた容器・唐墨など貴族の化粧に必要な道具一式が揃っている。埋葬された人物への家族の想いが伝わる品々である。



嵐山の邸宅

渡月橋北詰西側の発掘調査で、平安時代前期の庭園遺構が見つかった。手前には河原石を敷いた洲浜や景石の据付穴があり、奥に向けて中央部で屈曲する池が広がっている。皇族・貴族の別荘が、風光明媚な景勝の地に営まれたのである。